メールニュース　2024年8月28日付 NO.24241

▽▲令和6年度戦没船員慰霊式典▽▲

◆戦没船員の御霊の前で海員不戦の誓い

79回目の終戦の日を迎えた8月15日、「戦没した船と海員の資料館」がある関西地方支部において、令和6年度戦没船員慰霊式典が開催され、松浦満晴組合長をはじめ、関係者や遺族、約70人が参列した。

式典は、浦隆幸館長（関西地方支部長）の開式の辞で始まり、浦館長は「当資料館は2000年8月15日の創設以来、県内のみならず各地から多くの方々に来館いただき、今年6月までに来館者数は6万8570人、昨年1年間では2240人の方にご来館いただきました。私どもは、先の太平洋戦争において1万5518隻の民間船舶が撃沈されるとともに、6万人の民間船員の尊い命を奪った悲惨な体験を後世に伝え、戦争の加害者にも被害者にもならないとの強い信念のもと、これまでもこれからも変わることなく恒久平和を訴え続けてまいります」とあいさつした。

続いて主催者を代表し松浦満晴組合長が「先の大戦でお亡くなりになられた先輩諸氏6万643名に謹んで鎮魂の誠を捧げます。本組合は昭和20年10月5日、ここ神戸で再結成をして以来、海の安全と平和、そして世界の平和を希求してまいりました。79年目の終戦の日である本日、戦没された先輩たちの御霊の前で、あらためて海員不戦の誓いを皆さま方と共に確認したいと存じます。われわれ船員は先の大戦を決して忘れることなく、二度と国家の徴用や付随する要請によって危険な場所に赴かない、われわれ全日本海員組合はしっかりと心につなぎ活動を展開してまいります。さて、本年も昨年に続き神奈川県の観音崎公園において、第51回戦没・殉職船員追悼式が行われましたが、昨年行われた節目となる第50回戦没・殉職船員追悼式には天皇皇后両陛下のご台臨を賜り戦没船員に対してお言葉を賜ることができました。ここ戦没した船と海員の資料館は、2000年の開設から今年で24年を迎えます。これまでの関係者の皆さんの活動にあらためて敬意を表するものであります。戦争を知らない世代が大半となり、戦争を体験された方々が少なくなりつつある中で、この資料館の役割はますます重要となっています。先輩諸氏の御霊の追悼とともに、今日わたしたちが享受する平和と繁栄が戦没された船員をはじめとする多くの尊い犠牲の上にあることを思い起こす場所として、さらには、戦争の悲惨さを後世に伝え、平和の大切さを訴える貴重な場所として、本資料館の運営に取り組んでまいります」とあいさつした。

続いて正午を知らせる「八点鐘」の鐘の音が響く中、参列者全員で黙とうをささげた。引き続き、元「第六貫力丸」乗組員の遺族である森美保子さんから「父と私」と題した家族目線の講演の後、式典を終了した。

「海員だより」